

1 地区図書室からの移行の経緯

平成18年7月1日に、北野市民センター地区図書室を市民センター図書館とし、中央
図書館分室の第1号として誕生した。

当時本市では、読書のまち八王子推進計画の一環として、図書館資料の検索・貸出・返却や読書相談等の図書館機能の充実を図ることを考えていた。

17か所ある地区図書室のうち、地域、規模、貸出冊数及び利用者数等を考慮し、北野市民センター地区図書室を図書館化した。

中央図書館や分館である生涯学習センター図書館・南大図書館・川口図書館と比較して規模が小さいため、雑誌、視聴覚資料及び書庫の設置等物理的に図書館と同等な資料構成が困難であり、図書館と図書室の中間的存在として、分室として位置付けた。

住民協働及び費用対効果等を考慮して、引き続き地域住民協議会が運営に関わることとし、新たに図書館から司書を派遣した。

2 地区図書室を市民センター図書館化したメリット

- (1) 開館日数の増及び開館時間の延長
- (2) 図書館(市費で)から2名の司書を派遣。地区図書館の職員を指導。
- (3) 図書館システムの導入により、八王子市全図書館の検索が可能。
- (4) 全館共通の統一カードを使用することで、貸出事務等の迅速性及び従来の貸出カードを図書室で保管する必要がなく、個人情報の保護が図れる。
- (5) 蔵書管理方法が統一される。
- (6) インターネット予約による本の受け取りに市民センター図書館が利用可能。

3 市民センター図書館数等(令和2年(2020年)10月末日現在)

(1) 市民センター図書館数

5館

ア 北野市民センター図書館

(地区図書室開設) 昭和60年7月2日

(市民センター図書館) 平成18年7月1日

イ 由井市民センターみなみ野図書館

(地区図書室開設) 平成22年11月1日

(市民センター図書館) 平成27年10月3日

ウ 恩方市民センター図書館

(地区図書室開設) 平成7年11月1日

(市民センター図書館) 平成30年10月1日

エ 石川市民センター図書館

(地区図書室開設) 昭和59年12月19日

(市民センター図書館) 令和元年7月1日

オ 由木中央市民センター図書館

(地区図書室開設) 昭和63年3月22日

(市民センター図書館) 令和元年12月1日

4 図書館(整備)計画について

地区図書室の市民センター図書館化計画については、平成29年8月14日教育長決済により、市内13か所の市民センターに併設されている地区図書室を、市民との協働により運営する市民図書館として整備し移行する計画案が決済されている。

ただし、昨年度の会議において、見直しの方向性が提案されており、これからそれを含めて改めて検討する。

5 市民センター図書館運営経費

市民センター図書館の経費については、殆どが住民協議会へ運営をお願いしている委託料となっており、その大部分は人件費となっている。

予算及び決算額等(概算)は以下の通り。

(1) 北野市民センター図書館

~~(平成31年度予算額 12,143千円)~~

(平成31年度決算額 12,286千円)

(令和元年度³⁰予算額 12,487千円)

(令和2年度予算額 21,471千円)

※うち管理運営委託料 平成31年度決算額 12,972千円 (対予算額98.6%)

(2) 由井市民センターみなみ野図書館

~~(平成31年度予算額 11,221千円)~~

(平成31年度³⁰決算額 11,575千円)

(令和元年度³⁰予算額 14,787千円)

(令和2年度予算額 20,363千円)

※うち管理運営委託料 平成31年度決算額 11,018千円 (対予算額98.2%)

(3) 恩方市民センター図書館

(令和元年度予算額 21,419千円)

(令和2年度予算額 20,480千円)

(4) 石川市民センター図書館

(令和2年度予算額 20,853千円)

(5) 由木中央市民センター図書館

(令和2年度予算額 20,826千円)

※ 石川及び由木中央は、令和2年度から予算要求

※ 各市民センターへ図書館の予算には、報酬(司書2名)・職員手当(司書2名)・共済費(司書2名)・旅費(司書2名)・需用費・役務費・管理運営委託費等が含まれている。

6 運営方法

各市民センター図書館の窓口等の一部の業務は、その図書館の位置する地域住民協議会へ委託している。

各図書館の図書館員は、住民協議会で契約して図書館業務を行っている。

ただし、各市民センター図書館へ配属している2名の司書については、中央図書館に所属し市で管理している。

住民協働